2年4組国語科指導案

令和6年度12月　日（　）第　校時

場所　2年4組教室（34名）

【キーワード】ICT　　表現の工夫とその効果　　問いを立てる

1. **単元名**　「リーフレットで魅力を伝えよう！」

   教材名　「走れメロス」（「新しい国語２」東京書籍）

2. **内容のまとまり**

   第2学年

   〔知識及び技能〕　(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

   〔思考力、判断力、表現力等〕　「B 書くこと」「C 読むこと」

3. **単元設定の理由**

（1）生徒について　※全国学力状況調査の結果も踏まえて

本校では、全国学力状況調査において、佐賀県平均とは同程度であったが、全国平均からは 3 ポイントほど下回っていた。また、「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること」を問う設問については、正答率が全国平均を 12.5 ポイント、佐賀県平均を 5.9 ポイント大幅に下回っており、今回の設問の中で、最も全国との開きが大きかった。さらに、この設問に関しては、他の設問よりも無回答率が非常に高かった。

なお、今年度の全国学力状況調査は、現中学3年生を対象として行われており、今回の授業対象学年とは異なるが、これまでの学習状況から、本学年（中学2年生）も、「自分の考えが伝わるように、表現を工夫して文章を書いたり、その表現にどのような効果があるのかを自分の言葉で説明したりすること」が不得手であると思われる。

前年度学習した既習教材『少年の日の思い出』では、心情表現に着目して読むことで、「僕」の「①クジャクヤママユに対する気持ちの変化」、「②エーミールに対する気持ちの変化」、「③“僕”自身に対する気持ちの変化」を捉えた。その後、捉えたことをもとに、最後の場面における「“僕”がチョウを押し潰した理由」について、自分の考えをまとめる活動をした。

また、今年度学習した既習教材『字のない葉書』『辞書に描かれたもの』では、登場人物の言動や態度、考えを描写した表現に着目し、登場人物（『字のない葉書』では「父」、『辞書に描かれたもの』では「私」と「上野」）の人物像を捉えた。その後、『字のない葉書』では、捉えた「父」の人物像をもとに、「父」の立場に立って文章をリライトする活動をし、『辞書に描かれたもの』では、捉えた「私」と「上野」の人物像をもとに、各場面の「見出し」を付ける活動を行った。

以上のことから、前年度と今年度の活動を通して、生徒は、登場人物の心情やその変化を読み取ることや、登場人物の言動や思いに着目して作品を読んで、その登場人物がどのような人物なのかを捉えることが、ある程度できるようになったと思われる。

しかし、読み取った心情や人物像を関連付けて、想像を広げながら長文を読解していくことや、文章中の言葉以外を用いて心情や人物像を表現する語彙力に課題があると思われる。さらに、「読み手の興味を引きつけるための工夫が、本文中のどの部分にどのように凝らされているか」や、「その工夫によって、読み手にどのような効果を与えているか」などを考える力にも課題があると思われる。

本単元では、「表現の工夫とその効果に注目して、『走れメロス』の魅力を伝えるリーフレットを作成する」という課題を設定する。リーフレットには、『走れメロス』の魅力を伝える「ＰＲ文」と、「『走れメロス』の魅力を象徴する一文」を作成する。「ＰＲ文」には、本文から読み取った「表現の工夫とその効果」について、必ずふれながら書くことを条件づける。

「表現の工夫」が凝らされている部分を見つける手がかりとして、「人物・心情・情景」描写における、「①比喩表現、②擬音語・擬態語を用いた表現、③色彩的表現、④漢語を用いた表現、⑤独特のリズムを感じる表現、⑥語り手の変化」に着目させる。

リーフレット作成後は、互いに読み合い、その内容を吟味させる。その際、「ＰＲ文」に書いた内容から「『走れメロス』の魅力を象徴する一文」が読み取れるかどうかを評価させ合う。

リーフレットのモデルとして、前学年で学習した『少年の日の思い出』や、小学校で学習した『ごんぎつね』のリーフレットを提示し、学習課題に取り組みやすくする。

本単元では、第一次に「学習課題の達成につながる“問い”」を立てさせる。立てた“問い”の中から、自分が解決したいものを一つ以上選び、その“問い”について、友達と協力したり、ＩＣＴ機器（学習用端末）を活用したりしながら解決を図らせることで、「主体的に学習に取り組む態度」をも育てることができると思われる。

「“問い”を立てて課題解決を図る授業」に関しては、前単元の「武士の心を探る！　～武士たちが大切にするものとは！？～」（『平家物語』）で行っているため、生徒はある程度なじみがあると思われる。

以上の活動内容から、今年度の全国学力状況調査の課題として挙げられた、「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること」について、おおよそ解決するきっかけになり得ると思われる。

単元構成について	本単元では、「登場人物の人物像や心情を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすること」（〔知識及び技能〕の（1）エ）、「登場人物の設定の仕方や登場人物の心情、場面の展開、表現の効果について考え、内容を解釈すること」（「Ｃ読むこと」の（1）アイエ）、「人物描写や心情描写、情景描写における表現の工夫とその効果が伝わるように文章を作成し、読み手の立場に立って、文章を確かめて整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章のよい点や改善点を見出したりすること」（Ｂ「書くこと」の(1)ウエオ）を育成することをねらいとしている。なお、『走れメロス』では、本来「Ｃ読むこと」のみであるが、今回、学力状況調査の結果を受けて、「Ｂ書くこと」と「Ｃ読むこと」の領域を関連させている。 本教材は長年親しまれている物語であり、メディア化もされているため、学習する前から知っている生徒が多い教材である。『走れメロス』では、人間の信実を信じながらも、貫くことが難しいことを知るメロスの葛藤や、人間を信じることができなくなった王ディオニスが対照的に描かれている。中学二年生は多感な時期であり、こうしたいという理想と、理想通りにはいかない現実の中で悩みながら成長する時期でもある。その過程にある中で、主人公メロスと王ディオニスの考え方や行動に共感や疑問をもち、読むのが苦手な生徒でも物語に入りやすい教材である。特に、後半部分にある、メロスの信実を貫こうとする気持ちと、投げ出してしまいたいという「ふてくされた感情」との葛藤は、生徒たちの共感を得やすい部分でもある。また、作中では、「ぶるんと両腕を～」「濁流とうとうと～」「どうどうと響きをあげる～」などの擬音語・擬態語や、「濁流は、メロスの叫びをせせら笑うごとく、ますます激しく踊り狂う」「百匹の大蛇のように～」「メロスは黒い風のように～」などの比喩表現、「邪知暴虐」「巡邏」「憫笑」「繋舟」「獅子奮迅」「歔欷」などの漢語を用いた表現、語り手が第三者的視点からメロスへと変化している表現など、一つの物語を表現する上で、さまざな工夫が凝らされている。これらの表現が、読み手にどのような効果を与えるかを理解することで、リーフレットの「PR 文」や「『走れメロス』の魅力を象徴する一文」を作成する際に、自分の表現の参考にすることができる。 本単元では、「人物描写・心情描写・情景描写」における表現の工夫を読み解く際に、「①比喩、②擬音語・擬態語、③色彩的表現、④リズム、⑤語り手」に着目して考え、読み手にどのような影響を与えているか、読み手を作品に惹きこませる作品の魅力に気づかせる。 以上のことから、本教材は、表現の工夫とその効果について考え、内容を解釈することに適した教材と言える。
指導について	本単元では、表現の工夫に着目して内容を解釈し、Power Point を使って作品の魅力をリーフレットに書き表す活動を行う。 第一次では、小学校で学習した『ごんぎつね』や、前学年で学習した『少年の日の思い出』を使って、リーフレットのモデルを提示する。その際、「作品の魅力を象徴する一文」を空欄にし、すでに書かれている「ＰＲ文」の内容から、自分ならどのような一文を入れるかを考えさせる活動を行い、学習課題達成のためのモデル学習をする。この活動では、自分が考えた「作品の魅力を象徴する一文」が、「ＰＲ文」の内容から読み取ることができるかを重視させる。このほか、『走れメロス』で学習する語句の意味や漢字を確認したり、「登場人物・時間・場所・主な出来事」などを確かめながら本文を通読したり、通読後に forms のアンケート機能を使って、「作品を読んで疑問に思ったこと」、「納得できなかったこと」、「印象的な人物・言葉・表現・場面」について、自分の意見や感想を書いたりする。なお、forms で行ったアンケートの結果については、一枚のプリントにまとめ、生徒全員が共有できるようにする。このプリントの内容から、「学習課題を達成するために自分が解決したい“問い”」を一つ以上選ばせる。また、“問い”の形（「なぜ〇〇…なのか」など）になっていないものに関しては、「５Ｗ１Ｈ」（いつ・どこで・誰が・何を・なぜ・どのように）を使って、“問い”の形への変化を試みる。ここではさらに、「閉じた質問」ではなく、「開いた質問」になるようにすることと、調べたらすぐにわかってしまうような“問い”にしないようにすることを促す。“問い”を選ぶ際は、その“問い”を解釈していく過程で、学習課題に掲げている「表現の工夫とその効果」にふれられるものであるかどうかを吟味させる。 学習課題：　この単元では、『走れメロス』の魅力を伝える「リーフレット」を Power Point を使って作成します。リーフレットには、作品の魅力を紹介する「ＰＲ文」と、ＰＲ文の内容に合った「『走れメロス』の魅力を象徴する一文」を書きます。 また、「ＰＲ文」は「作中で用いられる表現の工夫と、その工夫が読み手に与える効果」にふれながら書きます。 「表現の工夫」が用いられるのは、主に「人物・心情・情景」についての描写です。さらに、それらの描写における「表現の工夫」を見つける観点として、「①比喩表現、②擬音語・擬態語を用いた表現、③色彩的表現、④漢語を用いた表現、⑤独特のリズムを感じる表現、⑥語り手の変化」を提示します。 ①～⑥の工夫が用いられている表現を探しながら本文を読み進めましょう。 第二次では、第一次で選んだ“問い”の解決を図る。“問い”の解決に際しては、「友達と協力しながら取り組む（ただし、自分を含めて二人まで）」場合と、「自分だけの力で取り組む」場合の二つのパターンを許可し、各々自分に合ったパターンを選択させる。選んだ“問い”の解決の手順として、第一次で示した「①比喩表現、②擬音語・擬態語を用いた表現、③色彩的表現、④漢語を用いた表現、⑤独特のリズムを感じる表現、⑥語り手の変化」の観点をもとに、選んだ“問い”を解釈する手がかりとなりそうな表現を本文中から探し、その表現を使って“問い”を自分なりに解釈させる。また、本文中

の表現を解釈するだけでは足りない場合は、インターネットを使って、活用できそうな情報を探させる。解釈したことや調べたことを関連させ、最終的に一つの「ＰＲ文」を作成できるようにさせる。

《例》

★　**問い：**なぜメロスは“勇者”なのか。

★　**本文中の手がかりとなりそうな表現：**①「濁流滔々」、②「どうとうと～」、③「木端微塵」、④「猛勢一挙」、⑤「ざんぶと～」、⑥「百匹の大蛇のように～」、⑦教科書ｐ160～のメロス自身を語り手とした心の葛藤の場面、⑧「私は、信頼に～走れ！メロス」、⑨「塔楼、夕陽を受けてきらきら光っている」、⑩「赤く大きい夕陽」、⑪「ひとりの少女が、緋のマントをメロスに捧げた」

★　**問いの解釈：**物語の序盤、メロスはただの一牧人であった。しかし、暴君ディオニスに、単身で啖呵を切ったことを皮切りに、さまざまな困難と、それに伴う葛藤を乗り越えることで、「真の勇者」へと成長する。困難にぶつかる場面では、「濁流滔々」「木端微塵」「猛勢一挙」などの漢語表現が次々と登場し、場面の物々しさが重厚感を伴って伝わってくる。また、「どうとうと～」「ざんぶと～」のような擬音語・擬態語、「百匹の大蛇のようにのたうち、荒れ狂う波」などの比喩表現から、メロスが立ち向かっている試練がどれほど過酷で危険なものであるか、その様子が明瞭かつ詳細に伝わってくる。これらの過酷な試練を乗り越え、満身創痍になりながらも、友との約束を果たし、王に信実を見せようとする姿は、まさしく“勇者”であると、読者に思わせることができるであろう。また、この作品には、「真紅の心臓」「斜陽は赤い～」「血が噴き出た」「塔楼は夕日を受けて～」など、「赤色」を象徴する言葉が何度も出てくる。そして最後には、ひとりの少女がメロスへ緋のマントを捧げることで物語を閉じる。困難や葛藤を通して勇者へと成長していくメロスを描く文章の中で、何度も「赤」を連想する言葉が随所に出てくることは、読者に「赤＝勇者」の色と思わせる効果があるのではないだろうか。

第三次では、第二次で解釈したことを、リーフレットとして、Power Point でまとめさせる。リーフレットには、解釈したことをもとにした「ＰＲ文」と、ＰＲ文の内容に合った「『走れメロス』の魅力を象徴する一文」を記入させる。さらに、作成したリーフレットをお互いに読み合い、「ＰＲ文」の内容から、「『走れメロス』の魅力を象徴する一文」として書いたことが読み取れるかどうかを吟味させ、友達からアドバイスを受けながら、自分のリーフレットを改善させる。

以上の活動を通して、単元の目標を達成させる。

4. 単元の目標

（１）登場人物の人物像や心情を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。　〔知識及び技能〕(1) エ

（２）「表現の工夫」に着目して作品を読み進め、「『走れメロス』の魅力」について自分の言葉で説明することができる。　〔思考力、判断力、表現力〕C (1) アイエ

（３）言葉がもつ価値を認識するとともに、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。

5. 生徒に提示する学習課題

『走れメロス』の魅力を伝えるリーフレットを PowerPoint で作成します。リーフレットには、魅力を伝える「ＰＲ文」と、ＰＲ文の内容に合った「『走れメロス』の魅力を象徴する一文」を載せます。

6. 本単元の中心となる言語活動

「表現の工夫」に着目して作品を読み進め、「表現の工夫やその効果」にふれながら、『走れメロス』の魅力を伝えるリーフレットを PowerPoint で作成する。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア登場人物の人物像や心情を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 (1) エ	**イ**「表現の工夫」に着目して作品を読み進め、リーフレット作成を通して、「『走れメロス』の魅力」について自分の言葉で説明している。 (1) アイエ	**ウ**進んで登場人物の人物像やその変容、表現の効果、場面の展開を捉えながら作品を読み進め、学習課題に沿って、作品の内容を解釈しようとしている。

8. 指導と評価の計画（全９時間）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法（例）
1	1	(1) 前学年で学習した『少年の日の思い出』、小学校で学習した『ごんぎつね』などを使って、リーフレットの作成の仕方をつかむ。 (2) リーフレットのモデルの、空欄になっている「作品の魅力を象徴する一文」に関して、「ＰＲ文」の内容をもとに、自分の考えを書く。	①プリントにて、『少年の日の思い出』『ごんぎつね』の本文を提示する。 ①リーフレットについて、具体的な例や画像を提示しながら説明する。 ★リーフレット… 一枚の紙を二つ折や三つ折りなどで折って作られる印刷物のこと。 ②リーフレットのモデルはプリントで示して、「作品の魅力を象徴する一文」は空欄にし、すでに記入されている「ＰＲ文」の内容からどのような一文を入れるのが適切か考えさせる。 ②自分で考えた「作品の魅力を象徴する一文」について、「ＰＲ文」の内容から読み取ることができるかどうか意見交流しながら検討させる。	イウ リーフレット作成のモデル学習を通して、学習課題への理解を深めている。 【プリント・観察】
	2	(3) インターネットを活用しながら、『走れメロス』で学習する語句の意味や、類義語、対義語を調べる。	③意味が複数あるものについては、教科書の本文を確認させ、本文の内容に沿ったものを記入させる。	ア 教科書の本文を確認しながら、語句の意味や、類義語、対義語をつかんでいる。 【プリント】
	3・4	(4) デジタル教科書の音声朗読機能を使って、『走れメロス』を最初から最後まで通読する。 (5) 諸読の感想（疑問に思ったこと、納得できなかったこと、印象的な人物・言葉・表現・場面を含む）について答える。 (6)「登場人物・時間・場所・主な出来事」を簡潔に確認する。	④疑問に感じた部分や、印象に残った部分など、通読中、気になった箇所には線を引かせたり、考えたことは教科書に直接書き込ませたりして、後から見返すことができるようにさせる。 ④通読中、分からない語句に関しては、前時で調べた語句のプリントを使って随時確認させる。 ⑤初読の感想については、forms のアンケート機能を使って答えさせる。(アンケート結果は、次時にプリントにて提示する。)	ウ 作品の内容を理解しようと、気になる表現に関して教科書に線を引いたり、通読中気になったことをメモしたりしている。 【観察】 イ 「作品の設定」についての情報を整理している。 【観察・プリント】
2	5・6・7	(7) 前時で答えた「初読の感想」について、項目別で提示されたものの中から、“問い”の形になっていないものを可能な限り“問い”の形に直す。 (8) 出そろった“問い”の中で、自分が解決したいものを一つ以上選ぶ。 (9) 選んだ“問い”について、本文中の表現や、インターネットの情報を手がかりにして解釈する。	⑦項目別… ㋐疑問に思ったこと ㋑納得できなかったこと ㋒印象的な人物 ㋓印象的な言葉 ㋔印象的な表現 ㋕印象的な場面 ⑦“問い”の形に直すときの注意点として、「閉じた質問にならないこと」、「５Ｗ１Ｈを使い、開いた質問になること」、「インターネットで調べたらすぐ出てくるようなものにならないこと」を挙げる。	

2	5 ・ 6 ・ 7		⑧“問い”を選ぶ際は、“問い”を解釈している過程で、学習課題にある「表現の工夫とその効果」についてふれることができるかどうかを吟味して選ばせる。そのため、“問い”を解釈する際は、必ず「表現の工夫とその効果」と結びつけさせる。なお、「表現の工夫」を探す際は、「人物・心情・情景」について描写されているところに着目して探させ、その中でもさらに、以下の観点の工夫がなされているところに目を向けさせる。 ●比喩表現　●擬音語・擬態語 ●色彩的表現　●漢語を用いた表現 ●独特のリズムを感じる表現 ●語り手の変化 ⑨“問い”を解釈するにあたっては、次のどちらかのパターンを選択する。 １．友達と協力しながら取り組む。 （ただし、自分を含めて二人まで） ２．自分ひとりで取り組む。	イウ 本文中の表現などを手がかりにして、内容や各自の課題を解釈したり、表現の効果についての理解を深めたりしている。 【観察･プリント】
3	8 ・ 本時	(10) 前時までに解釈したことをもとに、リーフレットの「ＰＲ文」を作成する。 (11) (10) で作成した「ＰＲ文」の内容に合った「『走れメロス』の魅力を象徴する一文」を添える。 (12) 前時で作成したリーフレットを読み合い、「ＰＲ文」の内容と、「『走れメロス』の魅力を象徴する一文」に整合性があるかを吟味する。 (13) 友達からもらった助言をもとに、再度リーフレットを改定する。	⑩ＰＲ文…必ず「表現の工夫とその効果」についてふれて書かせる。 ⑪「『走れメロス』の魅力を象徴する一文」は、「ＰＲ文」の内容から読み取れるものにさせる。 ⑪⑫リーフレットのモデルは、第一次で提示した、『少年の日の思い出』『ごんぎつね』のリーフレットを再度提示する。 ⑫三人以上の友達に読んでもらい、改善点などのアドバイスをもらうことを条件づける。 ⑬完成したリーフレットは、Teams で提出させる。	イウ 前時までに解釈した内容を、人に伝えるための文章として、さらに改善させながらリーフレットを作成している。 【リーフレット･観察】 イウ 友達からもらった助言をもとに、自分のリーフレットをよりよいものへと改善している。 【リーフレット・観察】
	9	(14) 単元の振り返りをする。	⑭本単元で、学んだことを今後の学習でどのように生かしていきたいかを単元シートに記入させる。	ウ 与えられた観点のもと、単元の振り返りをしている。【単元シート】

9. 本時の指導（８／９）

(1) 本時のねらい

「人物・心情・情景」についての描写における、「比喩表現、擬音語・擬態語を用いた表現、色彩的表現、漢語を用いた表現、独特のリズムを感じる表現、語り手の変化」に着目して作品を読み進め、そこに用いられている表現の工夫とその効果について、自分なりの解釈をまとめる。

(2) 本時の評価規準

イ「表現の工夫」に着目して、作品を読み進め、「読み手に与える効果」について、自分の言葉で説明している。

(3) 展開

時間	学習活動	形態	指導上の留意点	評価規準と評価方法
導入 10分	1. 前時の振り返り 2. 本時の学習の流れの確認 3. めあての確認	一斉	①前時に使用したプリントを使って、自分が考えた“問い”の解釈を確認させる。 ②単元シートを使って、本時の学習内容、学習課題を確認させる。また、Teams 上から、Power Point の様式をダウンロードさせ、自分のＰＣのデスクトップ上に必ず名前（「“問い”のタイトル、番号、名前」）を付けて保存させる。 ③めあての確認を使って、前時で自分が解釈したものが、「表現の工夫とその効果」にふれるものとなっているかを確認させる。	
	めあて：『走れメロス』の魅力を伝える「ＰＲ文」と、ＰＲ文の内容に合った「『走れメロス』の魅力を象徴する一文」を載せた「リーフレット」を作成しよう。			
展開 30分	4.『少年の日の思い出』や『ごんぎつね』のリーフレットのモデルを参考にして、自分が立てた“問い”の解釈を、「ＰＲ文」の形に直す。 5.「ＰＲ文」の内容にあった「『走れメロス』の魅力を象徴する一文」を考え、記入する。 6. 自分が作成したリーフレットを、三人以上の友達に読んでもらい、改善した方がよい点なでの助言をもらう。	個 『学』	④「ＰＲ文」を作成させる際は、人に魅力を伝える文体にすることを意識させる。また、「ＰＲ文」に、「表現の工夫やその効果」についての内容が盛り込まれているか考えながら作成させる。なお、文字数制限はしない。 ⑤「『走れメロス』の魅力を象徴する一文」を作成する際は、必ず、「ＰＲ文」の内容に合致したものになっているかどうかを吟味させる。 ⑥友達のリーフレットを読む際は、「ＰＲ文」に「表現の工夫やその効果」についての記述があるか、「ＰＲ文」と「『走れメロス』の魅力を象徴する一文」の内容に整合性があるかどうかを確かめながら読むことを意識させる。	イ「表現の工夫」に着目して、作品を読み進め、「読み手に与える効果」について、自分の言葉で説明している。
まとめ 10分	7. 友達の助言をもとに、自分のリーフレットを改善し、提出する。 8. まとめ	個	⑦出来上がったリーフレットは、Teams 上に提出させる。 ⑧本時の学習で意識したこと、そのために工夫したことなどを単元シートに記入させる。	